

■サンタアニタトロフィー（SⅢ）アラカルト（過去全 45 回の分析）

※第 1 回（昭和 55 年）から第 16 回（平成 7 年）までは「関東盃競走」の名称で実施

※第 23 回（平成 14 年）から第 24 回（平成 15 年）までは 1,590m で実施

※第 32 回（平成 23 年）は 1,800m で実施

※第 32 回（平成 23 年）は国際招待競走・別定競走として実施

※第 1 回（昭和 55 年）から第 40 回（令和元年）までは 7 月下旬～8 月上旬に実施

※第 41 回（令和 2 年）から第 43 回（令和 4 年）までは 11 月上旬～中旬に実施

※記録は令和 7 年 7 月 2 日時点

■1 番人気馬と 2 番人気馬の 3 着内率がまったく同じ

単勝 1 番人気馬は 14 勝、2 着 7 回、3 着 2 回で、3 着内率が 51.1%、単勝 2 番人気馬は 7 勝、2 着 9 回、3 着 7 回で、3 着内率が 51.1%、単勝 3 番人気馬は 7 勝、2 着 3 回、3 着 7 回で、3 着内率が 37.8%となっている。単勝 1 番人気馬の 3 着内率がそれほど高くない点に注意したい。

■1～3 番人気馬のワンツースリーフィニッシュ決着は 1 回だけ

過去 45 回のうち 28 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 9 回あるが、単勝 3 番人気以内の馬が 1～3 着を占めた例は現在のところ第 41 回（令和 2 年）のみである。

■優勝馬の大半は 4～5 歳馬

馬齢別の勝利数を見ると、3 歳が 1 勝、4 歳が 14 勝、5 歳が 14 勝、6 歳が 9 勝、7 歳が 5 勝、8 歳が 1 勝、9 歳が 1 勝となっている。なお、3 歳時に優勝を果たした馬は、現在のところ第 3 回（昭和 57 年）のレイククレーズのみである。

■“トップハンデ”の馬は12勝

過去45回のうち12回は、もっとも負担重量の重い馬が優勝を果たしている。一方、もっとも負担重量の軽い馬が優勝を果たした例は3回だけである。なお、優勝馬の負担重量は第6回（昭和60年）のテツノカチドキに課されていた59.5kgが最高、第2回（昭和56年）のダイロクホーメイと第3回（昭和57年）のレイクルイーズに課されていた50.0kgが最低だ。

■牝馬は2勝、外国産馬は優勝例なし

牝馬は第3回（昭和57年）のレイクルイーズ、第9回（昭和63年）のイーグルシャトーと、これまでに2頭が優勝を果たしている。なお、外国産馬は第25回（平成16年）でナイキゲルマンが、第28回（平成19年）でシーチャリオットが2着となったものの、まだ優勝例はない。

■騎手別の歴代最多勝記録は「7」

騎手別の勝利数を見ると、7勝の的場文男騎手が単独トップ。石崎隆之騎手、張田京騎手が4勝で2位タイとなっている。

■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の大山末治調教師、月岡健二調教師がトップタイ。荒山勝徳調教師が3勝で単独3位となっている。

■外寄りの枠番がやや優勢

枠番別勝利数を見ると、6枠（10勝）が単独トップ。7枠と8枠（各6勝）が2位タイとなっている。また、馬番別勝利数を見ると、6番（6勝）が単独トップ。1番、2番、8番、12番（各4勝）が2位タイである。なお、未勝利の枠番ならびに馬番はない。

＜伊吹雅也＞